

# 子育て支援だより

## 「子育てワンポイントアドバイス」

### 第76回 「泣いてもいいよ」

こころの相談員 小林 節子

幼い子どもほど声を出してよく泣きますね。兄弟げんかをして、転んで膝をすりむいて、自分の思い通りにならないからという理由でも。子どもがなかなか泣き止まないと、親は不快感やイライラが募って、つい「いつまで泣いてるの」「そんなことで泣かないのよ」「泣く子は嫌いよ」などと、子どもを叱ってしまうこともあるのではないのでしょうか。

ですが、子どもにとっては、泣くことも一つの自己表現なのです。泣きたい気持ちを親に「大丈夫だよ」と、受け止めてもらったことで、子どもは自分が愛されていることを実感します。愛された子は、自分に自信を持ち、他者にも優しくなれます。幼い時に泣き虫だった子が、大人になって社会人として未熟であったり、逆境に弱い人間になるとはかぎりません。

親は子どもが泣いた時、ただ早く泣き止ませようとするのではなく、上手に励ましたり、慰めたり、場合によっては、黙って見守ってあげればいいのです。時には、泣くこと自体が「カタルシス」といって、負の感情を浄化する作用もあるのであります。

※小林相談員は、あさひ園・カンガルーあさひなどで相談活動を行っています。

## 活動報告



3月11日に行なわれた福祉感謝祭で、あさひっ子クラブ（学童）が出展しました。



<わなげ>

あさひっ子クラブでは、不用品のバザーとわなげを行ないました。



<不用品バザー>